



Injection for Innovation

つなぎ、はぐくむ、日精のモノづくり

2019年3月期決算説明



日精樹脂工業株式会社

2019年5月

2019年3月期 業績の概要

単位:百万円 ()内前期比

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株 当 た り 純 利 益
2019年3月期	44,065 (4.1%)	3,510 (13.1%)	3,593 (7.1%)	2,589 (75.4%)	129.56円
2018年3月期	42,321 (15.2%)	3,103 (23.0%)	3,354 (65.6%)	1,476 (0.6%)	73.85円

売上

- ・ 期中後半にかけてアジアでの需要が鈍化したものの、国内を中心に堅調に推移したことから、売上高は前期比4.1%増の440億6千5百万円となった。

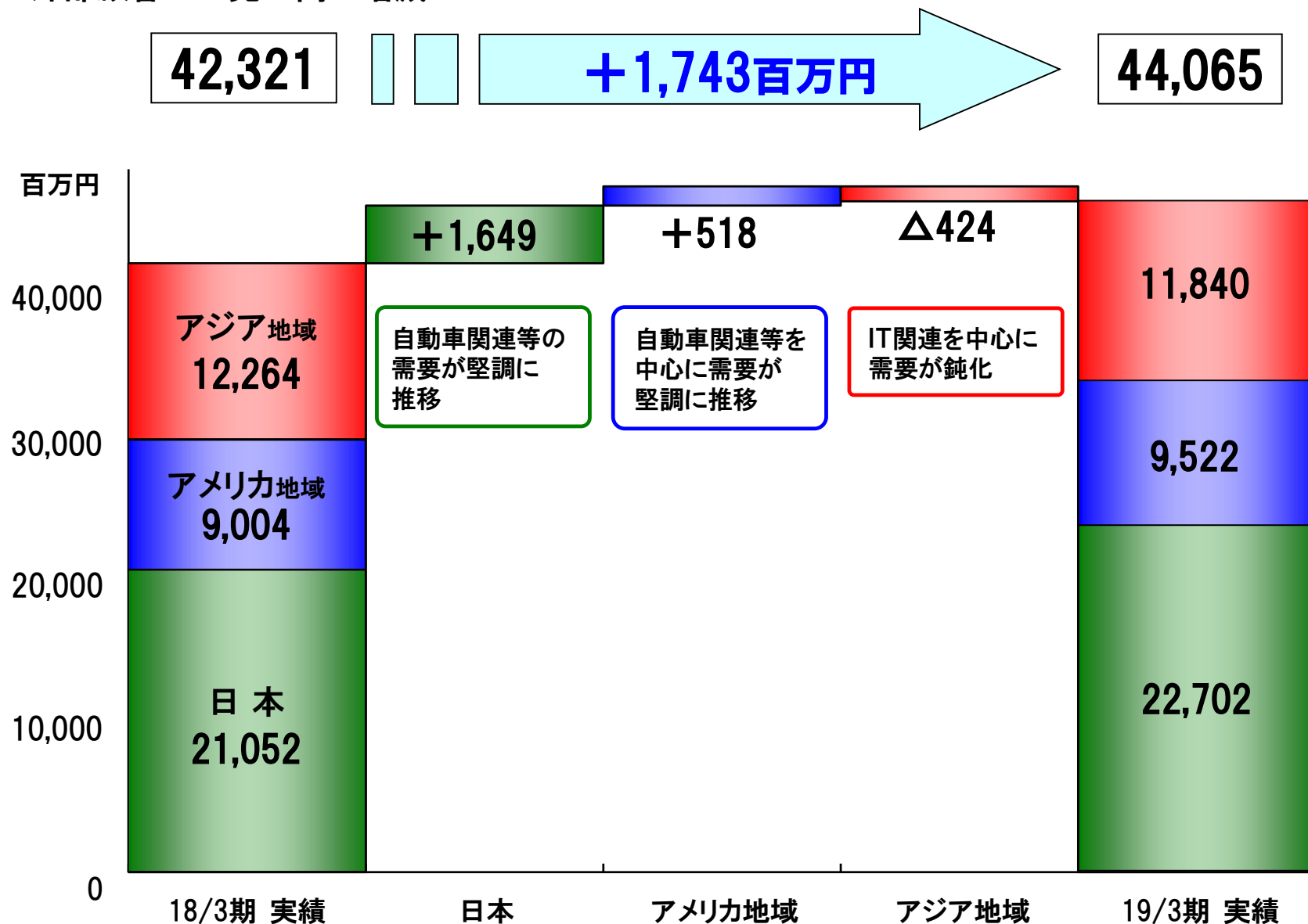
利益

- ・ 営業利益は、射出成形機の販売増と単価上昇により、前期比13.1%増の35億1千万円。
- ・ 経常利益は35億9千3百万円(前期比7.1%増)、当期純利益は25億8千9百万円(同75.4%増)となった。

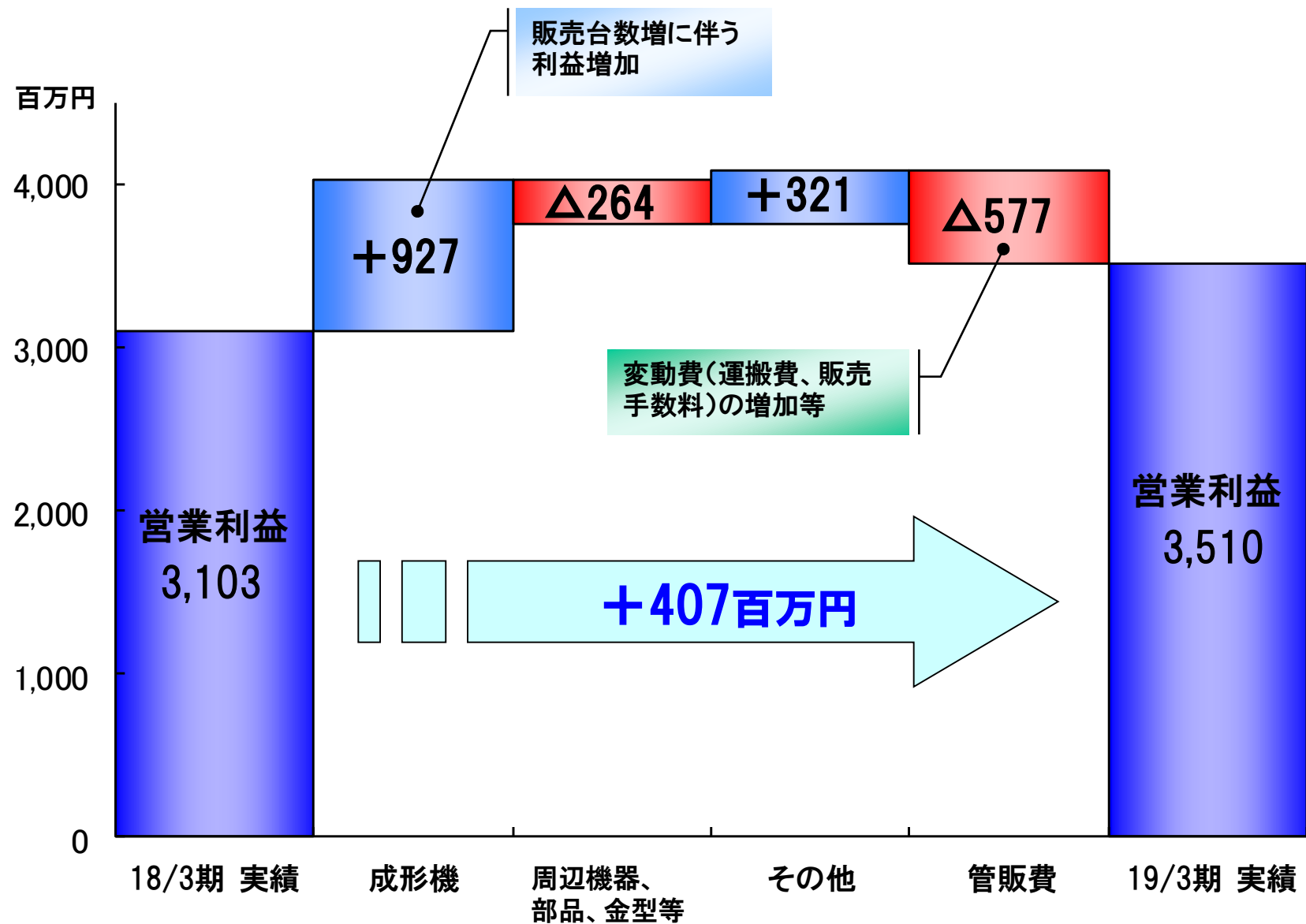
単位：百万円、比率％

	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	対前期比	
			差異	率
射出成形機	32,344	33,672	1,328	4.1
周辺機器	3,001	2,760	△241	△8.0
部品	5,354	5,400	45	0.9
金型・中古機	1,050	1,170	119	11.3
その他	569	1,061	491	86.4
売上高合計	42,321	44,065	1,743	4.1
売上総利益	12,030	13,015	984	8.2
一般管理販売費	8,927	9,504	577	6.5
営業利益	3,103	3,510	407	13.1
経常利益	3,354	3,593	239	7.1
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,476	2,589	1,113	75.4

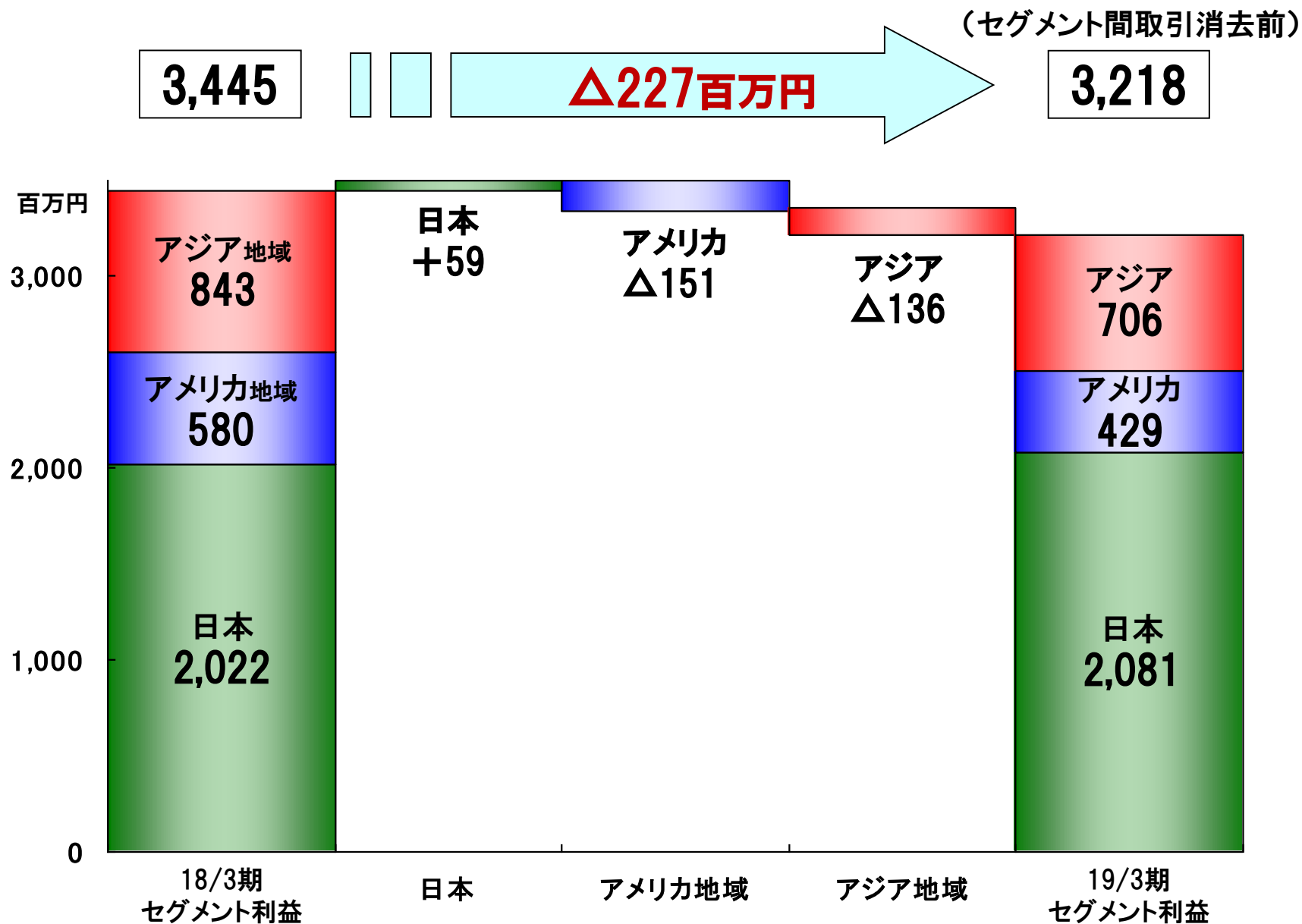
外部顧客への売上高の増減



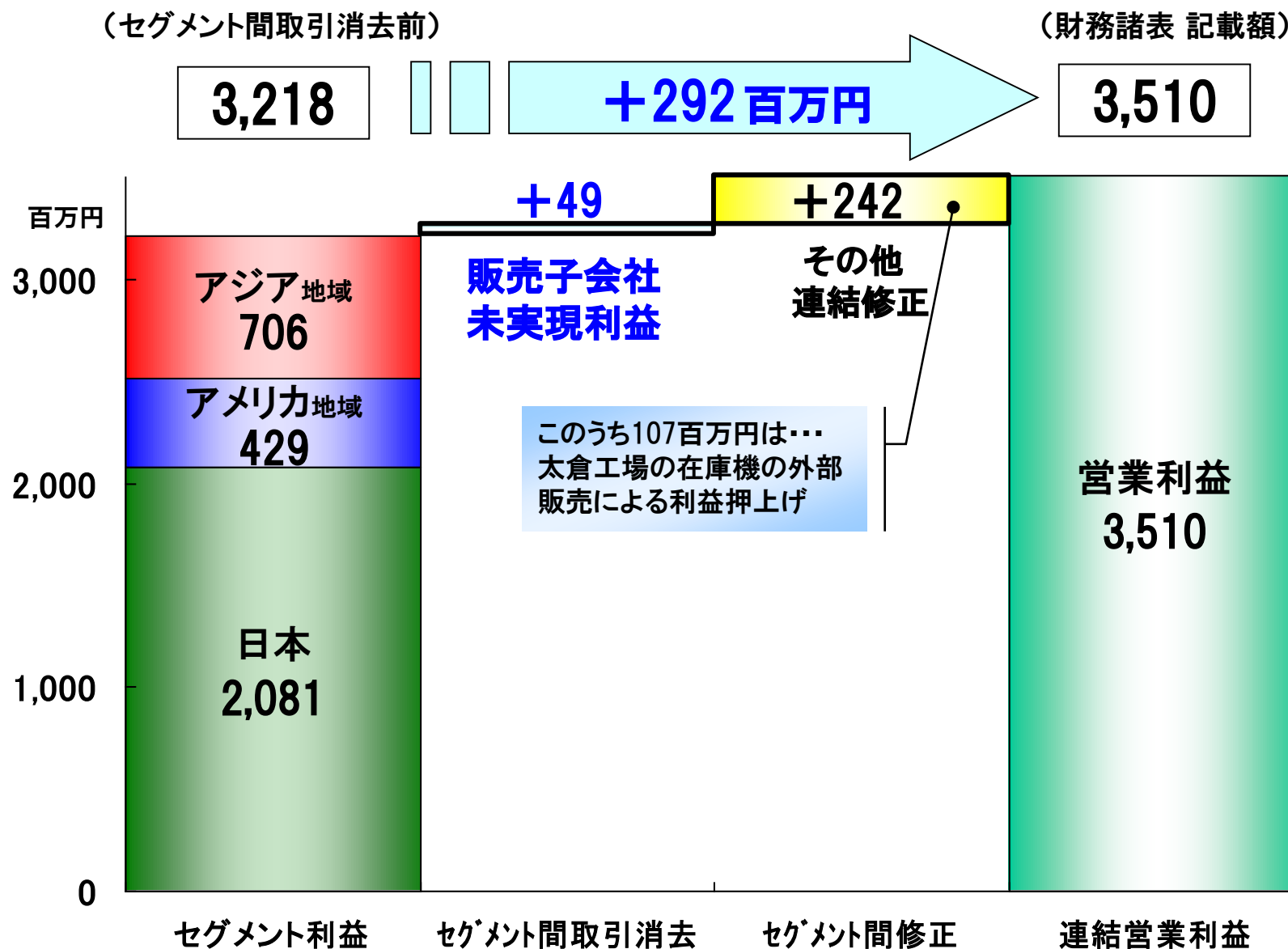
連結営業利益(製品別)増減 [2018年3月期⇒2019年3月期]



連結営業利益(セグメント別)増減 [2018年3月期⇒2019年3月期]



連結営業利益 ～セグメント間取引消去

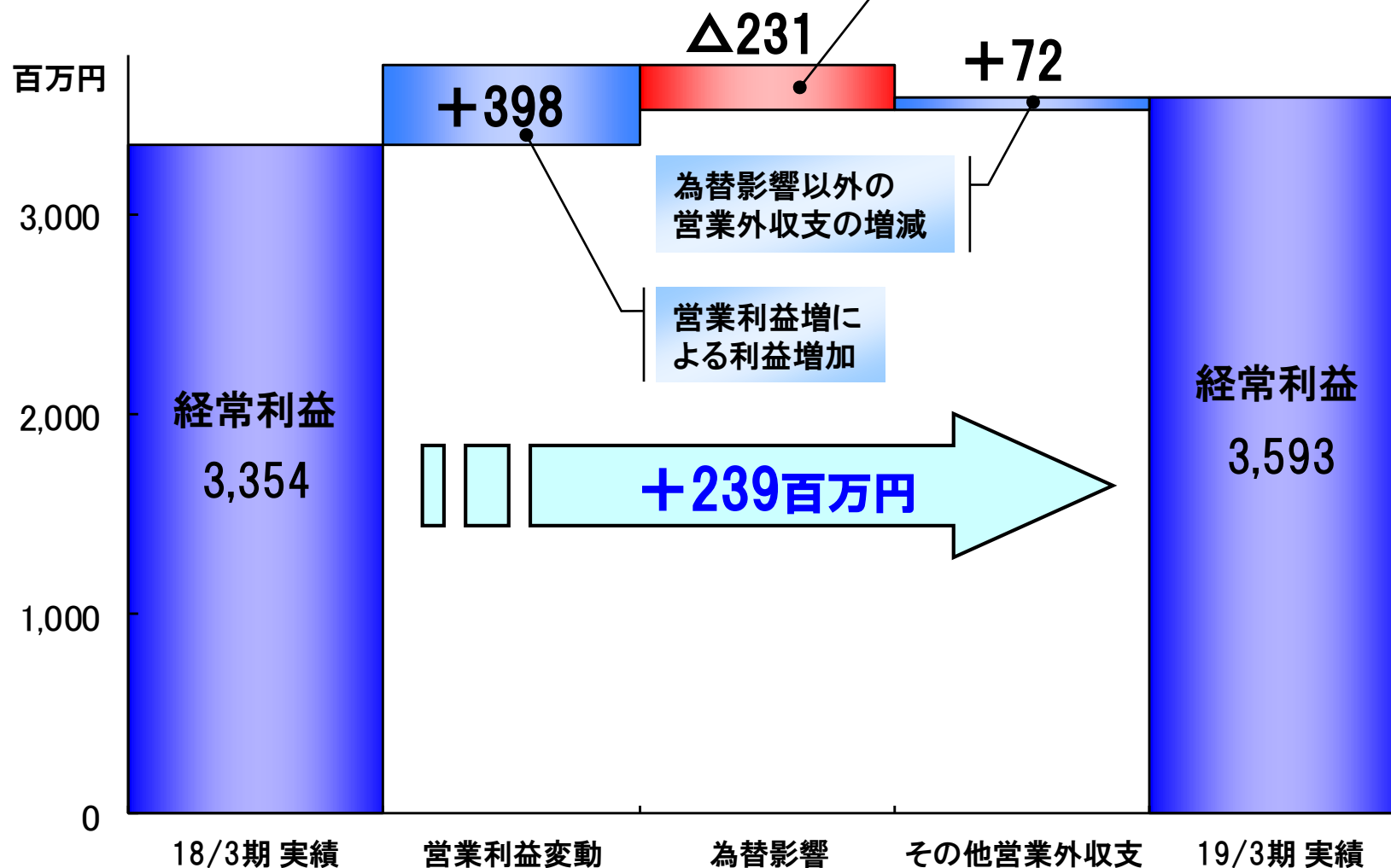


連結経常利益の増減 [2018年3月期⇒2019年3月期]

\$円レート: 18年 3月末 ¥106.24 ⇒ 19年 3月末 ¥110.99
元円レート: 17年12月末 ¥17.29 ⇒ 18年12月末 ¥16.16

18/3期 為替差損 10

19/3期 為替差損 241

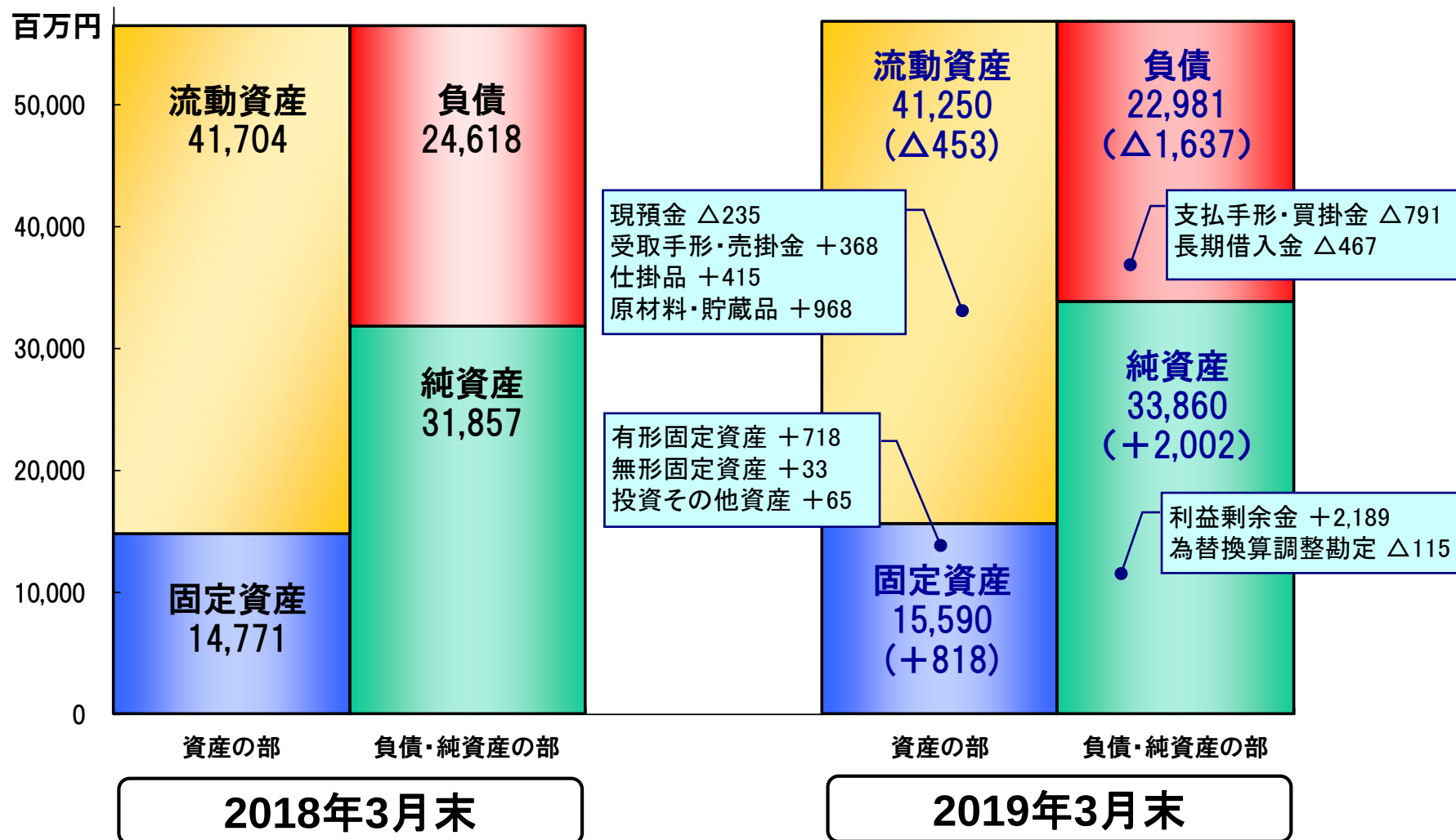


連結貸借対照表の増減 [2018年3月末⇒2019年3月末]

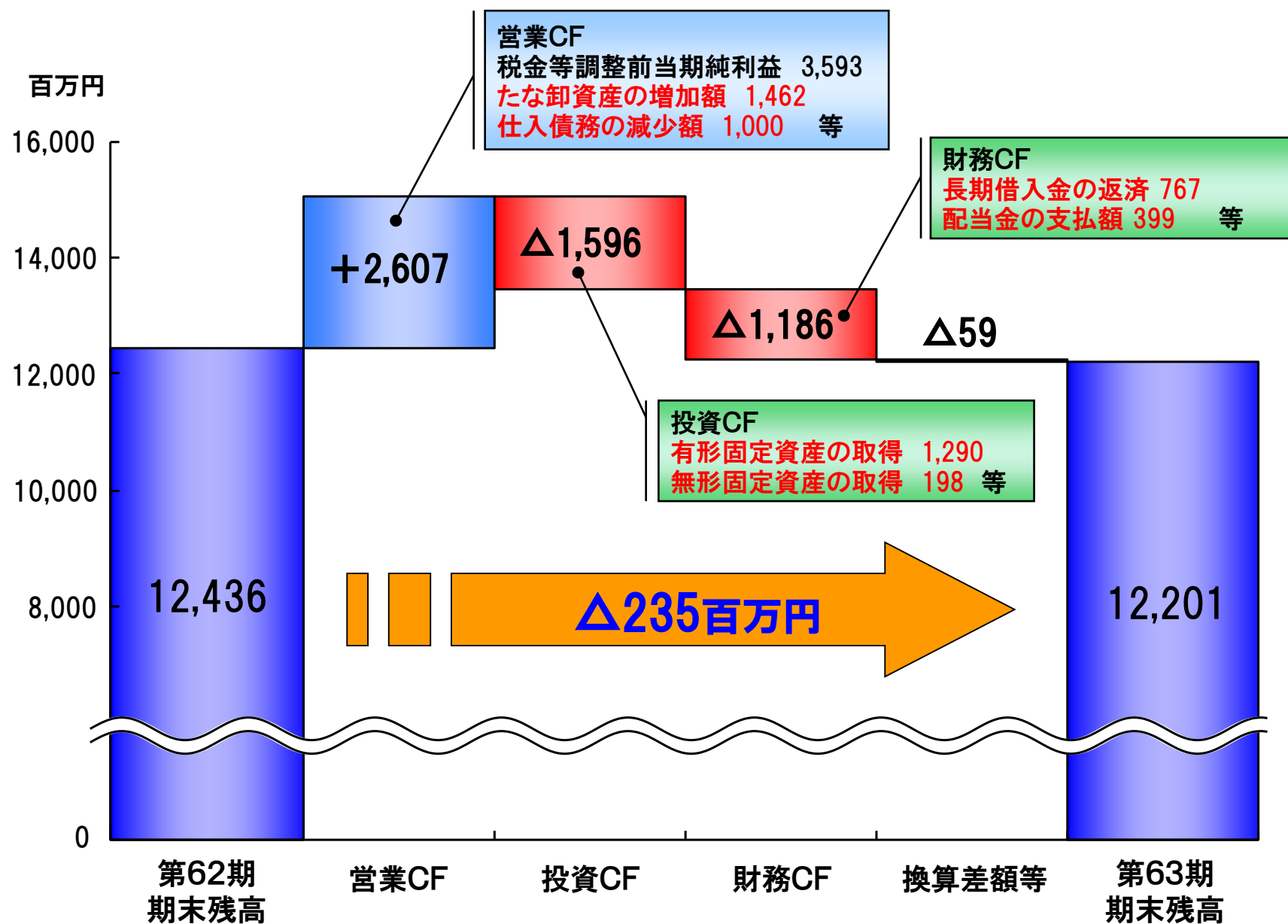
56,476

+364百万円

56,841



連結キャッシュフロー ～現金及び現金同等物の増減～

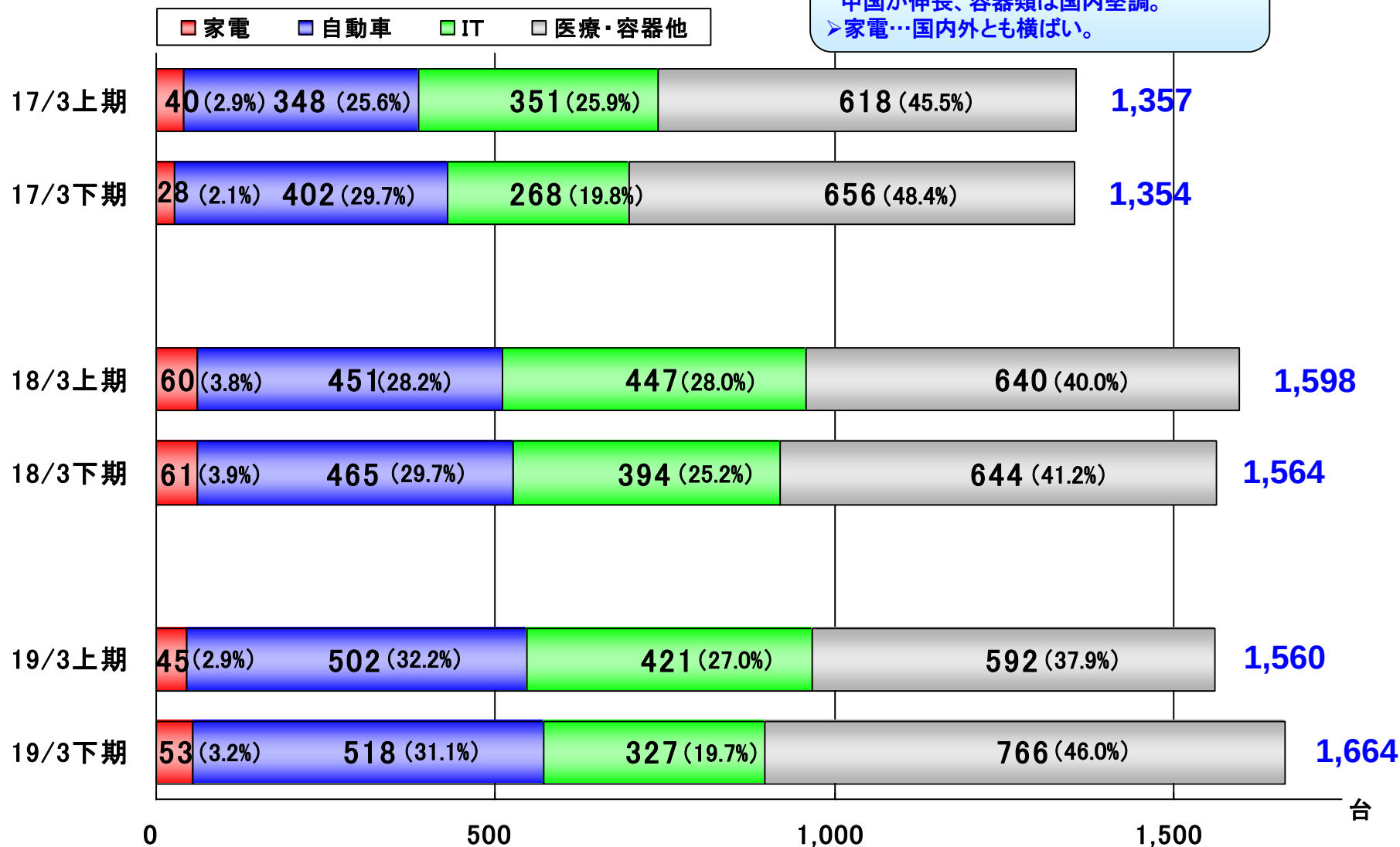


射出成形機の需要先別出荷台数推移(当社)

自動車関連、IT関連、医療・容器関連の3本柱が、
出荷の大半を占めている。

2019年3月期

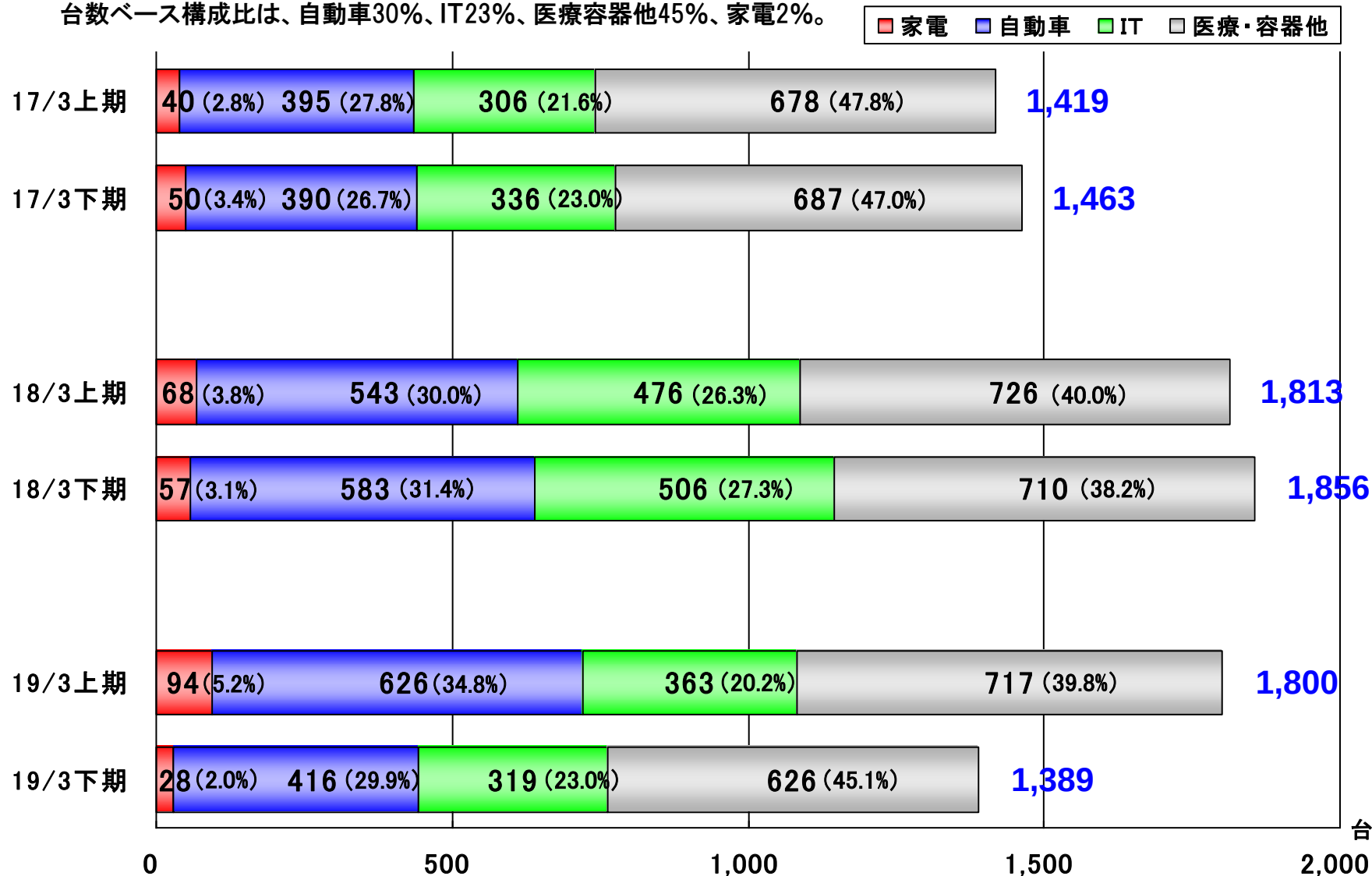
- 自動車…国内・海外とも堅調。
- IT…国内外、特に中国が減少傾向。
- 医療・容器他…医療機器は国内横ばい、
中国が伸長、容器類は国内堅調。
- 家電…国内外とも横ばい。



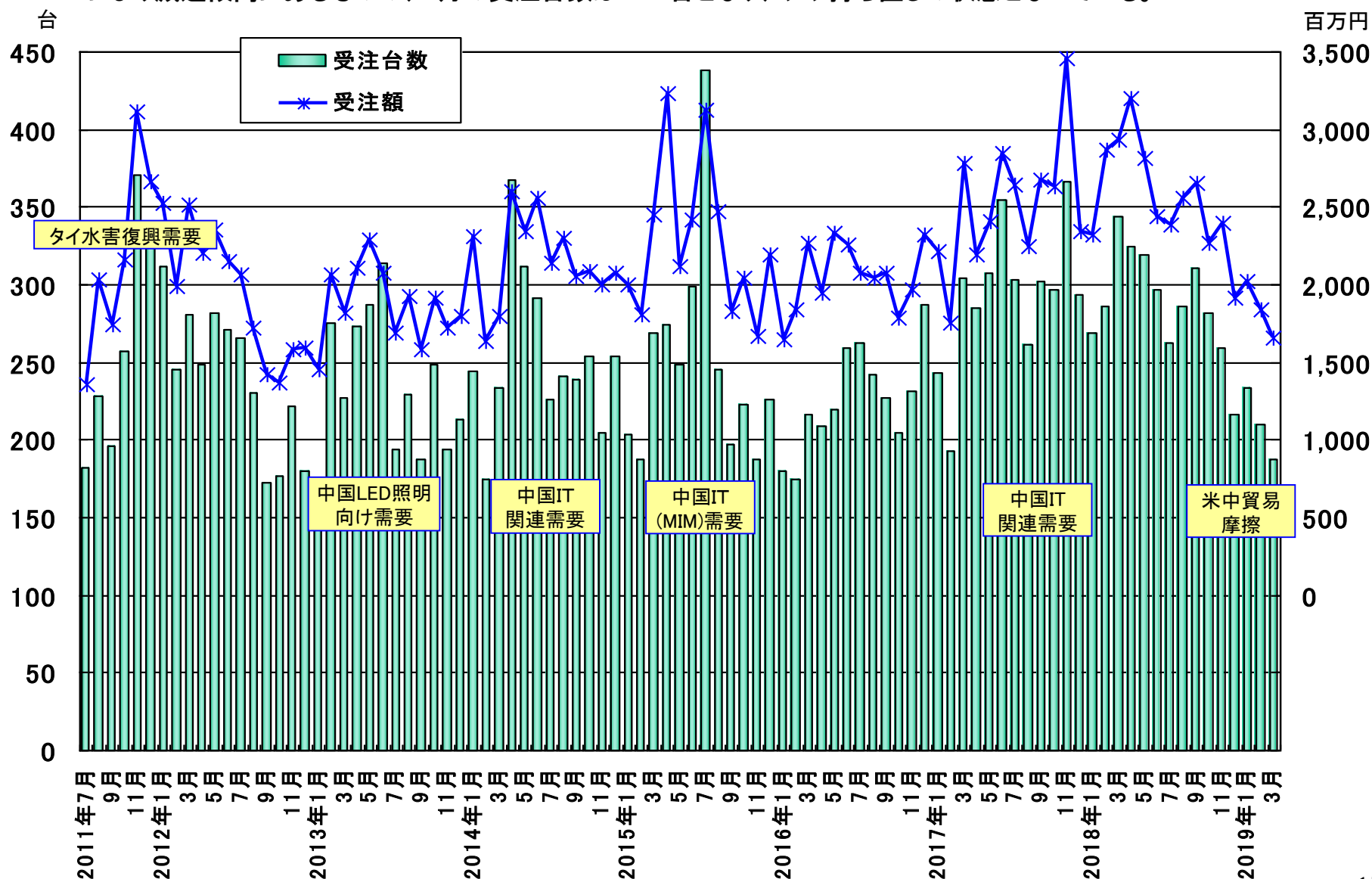
射出成形機の受注推移

射出成形機の需要先別受注台数推移(当社)

- ・ 2019年3月期下期の受注は 1,389台。半期で1,800台という高水準の受注が続いていたが、19年3月期下期はすべての業種で減速、様子見ムードが広がる。
台数ベース構成比は、自動車30%、IT23%、医療容器他45%、家電2%。



2017年から高水準な設備需要が持続し、毎月300台前後の受注を記録していたが、米中貿易摩擦の影響等により減速傾向にあるものの、4月の受注台数は233台となり、やや持ち直しの状態となっている。



2020年3月期計画について

経営方針

1. **真のグローバル経営の強化**
2. **グローバル市場への積極的展開による
営業強化**
3. **グローバル生産体制の強化**
4. **グローバルリスク管理体制の強化**

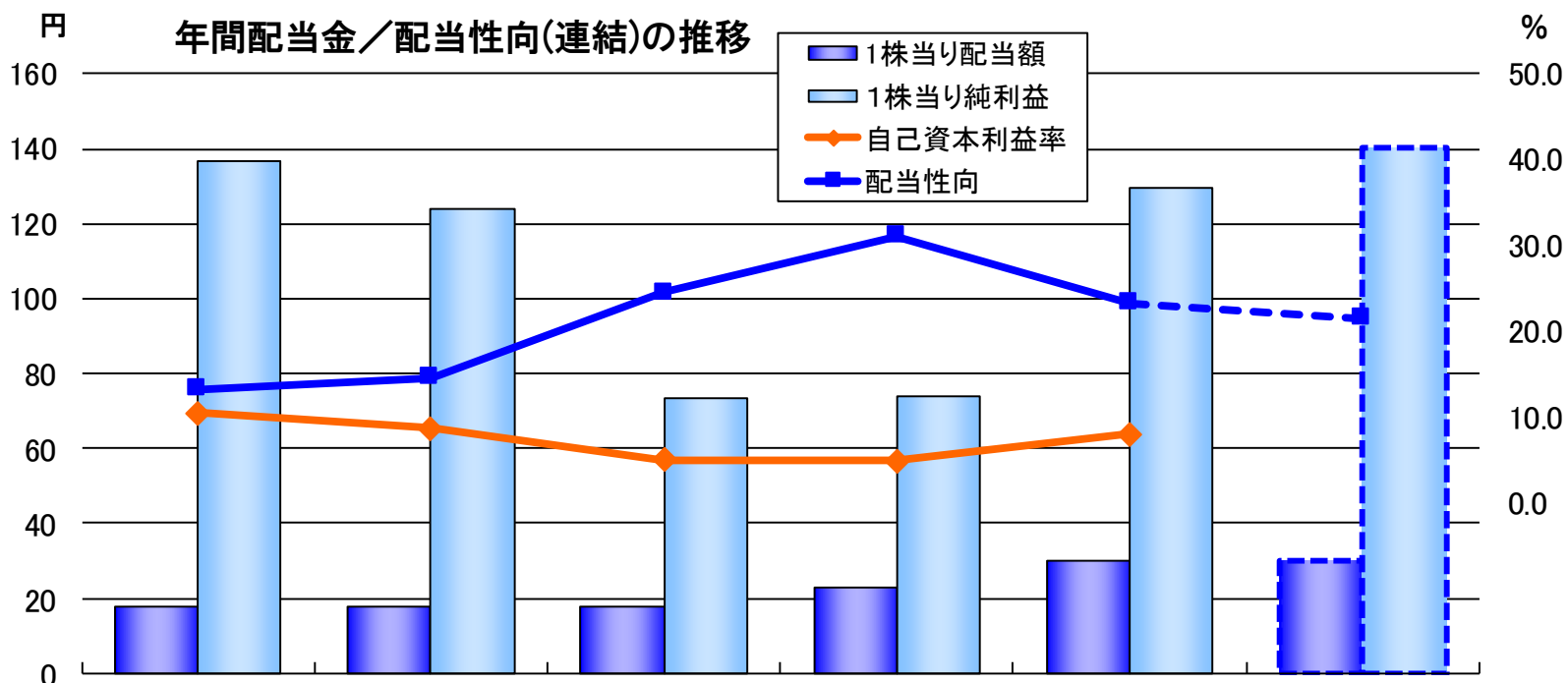
単位：百万円、比率%

	2019年3月期 実績	2020年3月期 連結計画	
		通期	増減 %
売上高	44,065	44,500	1.0
営業利益	3,510	3,600	2.6
(利益率)	8.0	8.1	—
経常利益	3,593	3,700	3.0
(利益率)	8.2	8.3	—
当期純利益	2,589	2,800	8.1
(利益率)	5.9	6.3	—

2020年3月期 本社工場をはじめ、国内外工場での設備増強、建屋改修等を計画。

	2020年3月期 計画	百万円
主な設備等	本社工場	
	工作機械新規導入・更新	296
	設備改修、システム改修、他	99
	3D CAD関連費用	21
	海外会計システム、他	68
	太倉工場 増築工事	380
	タイ工場 設備増強	19
	米国工場 追加設備	7
	日精ホンマ 設備増強・他	472
	日精メタル 設備増強・改修	300
	その他、維持投資等	241
設備投資総額		1,903
発注済投資案件		
本社出資	太倉工場増資	380
減価償却費		920
研究開発費		360

・2020年3月期 年間配当は、1株について30.00円(中間15.00円、期末15.00円)を予定。



	2015/3月期	2016/3月期	2017/3月期	2018/3月期	2019/3月期	2020/3月期 (予想)
1株当り純利益	136.54円	123.77円	73.45円	73.85円	129.56円	140.09円(予)
1株当り配当額	18.00円	18.00円	18.00円	23.00円	30.00円(予)	30.00円(予)
中間配当	5.00円	8.00円	8.00円	13.00円	10.00円	15.00円(予)
期末配当	13.00円	10.00円	10.00円	10.00円	20.00円(予)	15.00円(予)
配当性向	13.2%	14.5%	24.5%	31.1%	23.2%	21.4%(予)
自己資本利益率	10.4%	8.6%	4.9%	4.8%	7.9%	

トピックス

インド・チェンナイに販売現法の支店を開設



首都ニューデリー近郊のグルガオンに設立済みの販売現地法人の支店として、南東部の主要都市チェンナイに事務所を開設、1月より本格的に業務を開始しました。

チェンナイ周辺には、ダイムラー、ルノー・日産、フォード、現代、BMW等の完成車メーカーが工場を構えており、多くの大手部品サプライヤーも進出を加速させていることから、グローバル戦略の一環として、主にサービス体制の拡充を図ることが目的です。

同事務所は、チェンナイ国際空港と市街地との中間地点にあり、チェンナイ近郊の北部・西部・南部に広がるユーザーをカバーする上で、交通至便な立地。

拠点名: Nissei Plastic (India) Private Ltd. Chennai Office
所在地: 33-B, 9th floor, Olympia Platina, South Phase, Guindy Industrial Estate, Chennai 600032, Tamil Nadu, India
スタッフ: 本社出向者1名、ローカルスタッフ1名 計2名

QC棟(品質管理棟)が竣工



昨年8月より建設中であったQC棟が竣工。3月には最新の3次元測定機を導入し、稼働を開始しました。なおQC棟は、当社で2棟目のZEB実証事業に採択され、省エネ性能の高い建築物となっています。



一般検査場(左)、恒温室に設置された三次元測定機(右)

QC(品質管理)棟建設の目的:

昨年顕著となった産業機械用各種部材の逼迫、原材料価格の高騰、部品加工メーカーの繁忙による加工遅れ等への対応策として、①グローバル調達部品や内製加工部品の拡大、②部品加工の協力工場の開拓・増強を推進する上で、一層の品質管理体制の強化を図る必要から、QC棟を新設し、最新の検査設備を導入。

2019.1.25

ZEBリーディング・オーナーに登録。 建築物のZEB化による環境負荷低減を推進。



★ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)とは・・・

年間で消費する建築物のエネルギー量を大幅に削減するとともに、
創エネでエネルギー収支「ゼロ」を目指した建築物。

当社は、『ZEB』を見据えた先進建築物として、50%超の省エネルギーを実現する『ZEB Ready』に該当。
1棟目の研究開発センターが、建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)の評価で5つ星を獲得したことから、
『ZEBリーディング・オーナー』の認定を受け、登録いたしました。今後もZEBの普及・拡大に努めてまいります。

研究開発センター



設計一次エネルギーの削減量:54%

- ◎高断熱化(高断熱サッシ、高断熱天井)
- ◎高効率空調機、高効率照明の導入
- ◎CO₂センサーの導入 等



QC棟



設計一次エネルギーの削減率:57%

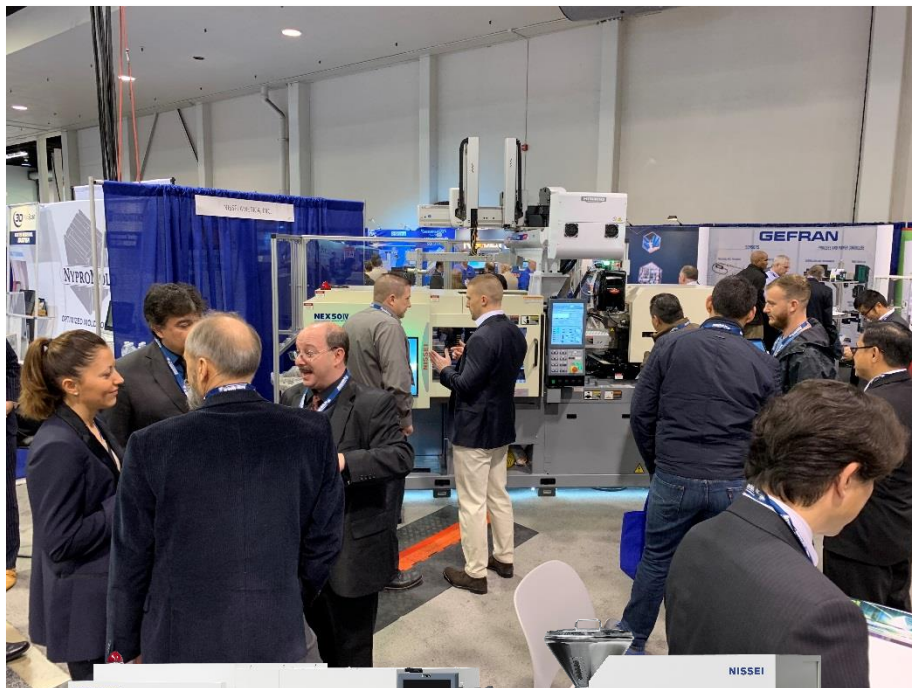
- ◎高断熱化(高耐熱外壁・屋根・サッシ)
- ◎高効率空調機、高効率照明の導入
- ◎CO₂センサーの導入 等



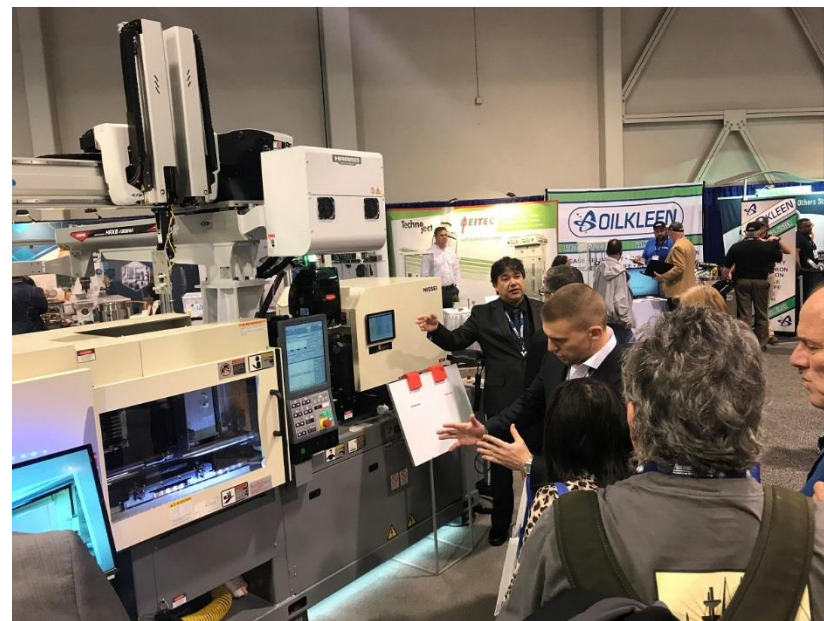
PLASTEC WEST 2019(米国)に出展



米国では自動車部品関連に加えて、医療関連の成形加工メーカーも多く、これら業種の精密成形ニーズにお応えするため、最新の電気式成形機に搭載された成形支援機能による連続安定成形を提案しました。

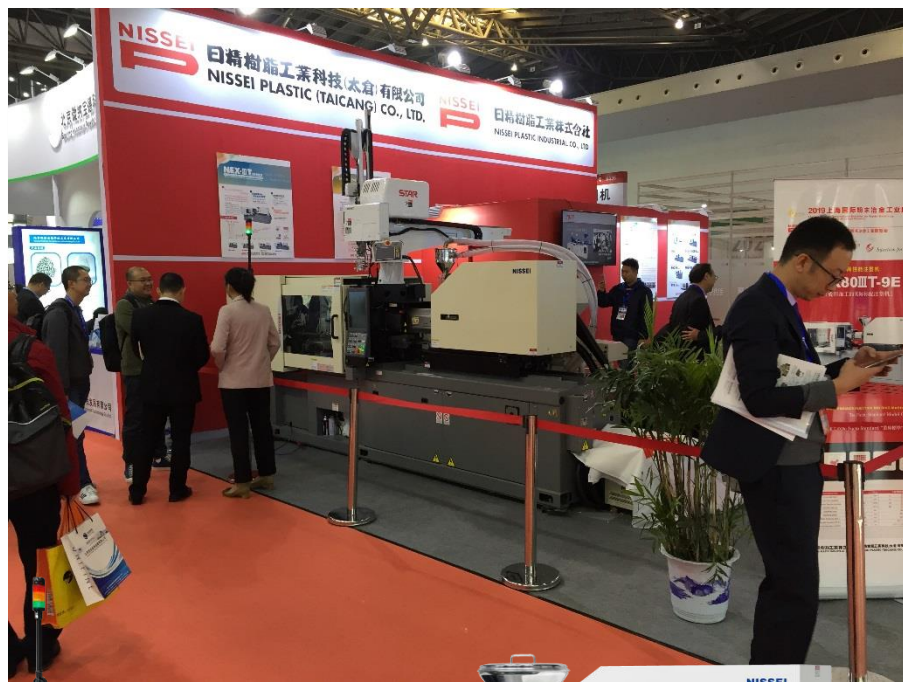


電気式射出成形機
NEX50IV-5EG



2019.2.5-7

PM China 2019(中国)に出展



太倉工場製電気式射出成形機
NEX80ⅢT-9E



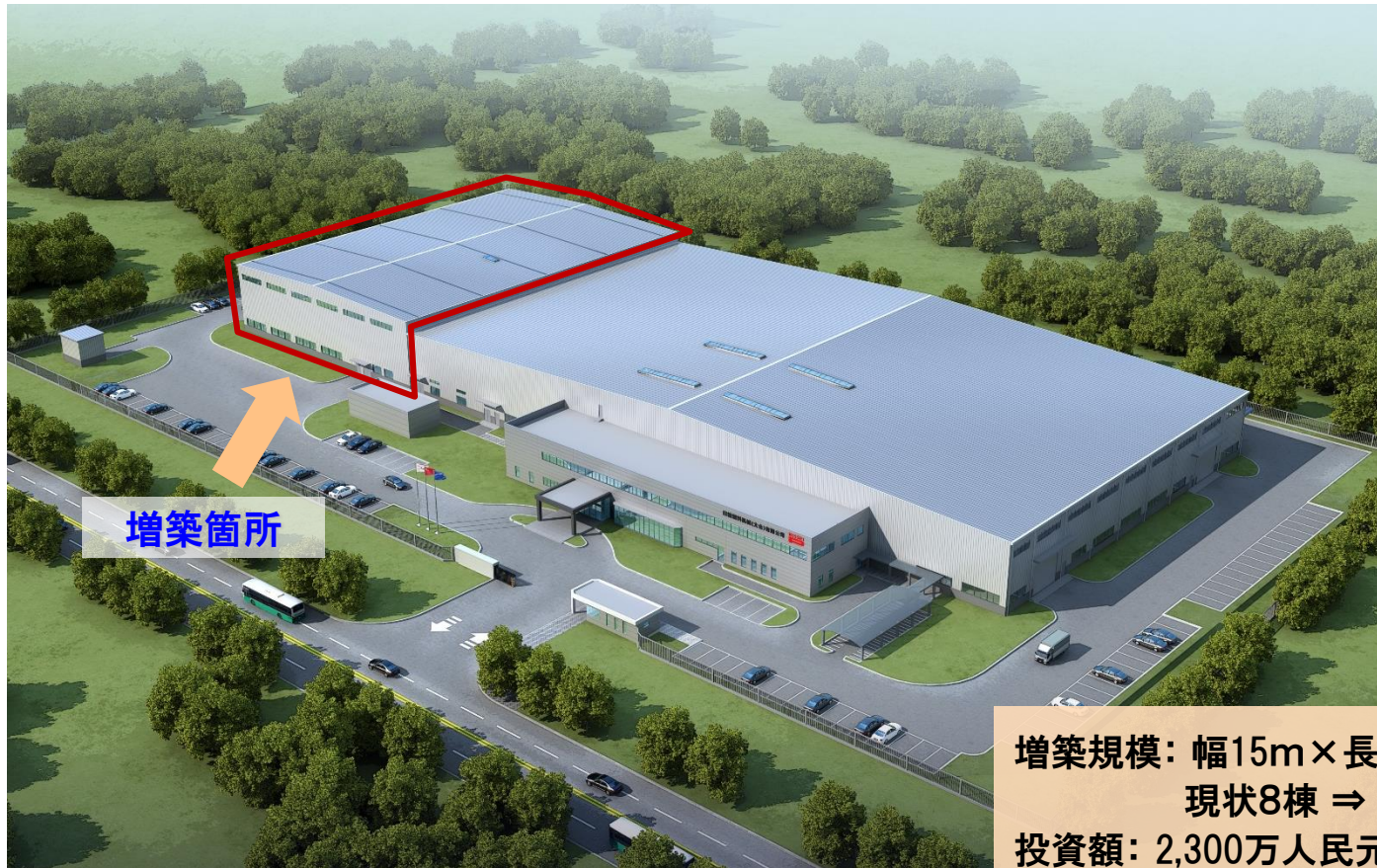
粉末射出成形の分野において、世界最大の市場となっている中国で、国際展示会に出展。当社は『MIM・CIMの日精』として中国市場で広く認知されており、従来の電子部品メーカーのみならず、自動車部品や医療機器分野に向けて積極的なPRを行いました。



MIM: 金属射出成形
CIM: セラミック射出成形

2019.3.25-27

中国・太倉工場の生産能力を増強



太倉工場では、2014年の移転拡張後、生産機種拡大を図り、FVXシリーズの組立も開始しました。これにより、組立スペースが手狭となってきたこと、また、射出成形機のグローバルでの安定供給を実現していくため、太倉工場の増築を決定いたしました。

増築規模：幅15m×長さ70m＝1,050㎡
現状8棟 ⇒ 11棟へ増設
投資額：2,300万人民币元（約3億8,000万円）
スタッフ：約2割増員へ
竣工予定：9月中旬

2019.4

低床化により作業性・操作性を大幅に向上した ハイブリッド式縦型射出成形機を5月より受注開始

TWX220RⅢ 25V

New



機械全高を従来機比10%減

ワイドなターンテーブル

- ✓ 大型化・複雑化する金型に対応
- ✓ 金型の3ステージ化も容易に対応可能

高機能コントローラ『TACT IV』

- ✓ 視認性・操作性に優れた15インチLCD搭載
- ✓ 品質・生産管理機能、メンテナンス機能の向上

当社独自の
ハイブリッドポンプ搭載で
省エネ特性を発揮

作動油量を従来機より52%削減
✓ イニシャルコストを削減

新設計の複合型締機構により、金型取付面高さを従来機比30%減
✓ 金型交換などの段取替えの作業性が向上
✓ ロボットなど自動化システムの構築が容易



新型TWX



従来機

2019.5.1



日精樹脂工業株式會社

本資料に掲載されている当社の業績予想、見通し、重点戦略につきましては、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があります。
